

令和元年度 オープンスクール特別講演会

「持続可能な社会を目指して

を実施しました（6月15日(土)）。

～SDGs てなんだろう、具体的な行動に移すためには～」

が開催されました。講師は本校 SSH 運営指導委員長でもある
酪農学園大学（教授）金子正美 先生です。

最近新聞やテレビなどでも目にしたり耳にすることが多くなった「SDGs」ですが、**Sustainable Development Goals**（持続可能な開発目標）の略称で、SDGs（エス・ディー・ジーズ）とよみます。2015年9月の国連サミットで採択され、2016年～2030年の15年間で達成するために掲げた目標です。スケールの大きな話でなかなか具体的に自分の考え方や行動につなげにくいという印象持たれることも少なくありません。

今回の講演会では、持続可能な社会に向けて、一人一人がどう考え、どう行動すべきか、また SDGs を地域の課題として考える際は、北海道の中の滝川、日本の中の北海道という視点ではなく、地球の中で自分たちの地域がどう位置付けられるのかという視点で考えることが大事であるということが話されました。「Think globally, act locally. (TGAL)」という言葉がありますが、これからは「Think glocally, act glocally.」つまり、地球規模で自分（地域）を考え、行動することが大切です。たとえば、お弁当を買うとき、添加物やアレルギーの有無や栄養価だけを考えるのではなく、原料はどこかきたのか、どのように作られたのか、なども考えるようにすることが大切です。自分たちの暮らしが、生物の絶滅に繋がっているかもしれない、他国の安い労働力や、学校に通えない子供たちの労働に繋がっているかもしれないのです。私たちがもっと視野を広げ、生活者として果たすべき責任を考えることができれば、身近なところに具体的な行動のきっかけは溢れているのではないのでしょうか。



酪農学園大学 農食環境学群
環境共生学類 金子正美 教授



Sustainable Development Goals
（持続可能な開発目標）17の目標



⑤

地球規模で地域考える

持続可能な未来へ

「RCE北海道道央圏協議会」は、SDGs(持続可能な開発目標)を道内の課題に引きつけて考える活動をしていきます。

北海道の中の札幌とか、日本の中の北海道という視点ではなく、地球の中で自分たちの地域はどう位置づけられるかという視点で考えるべきです。あくまで「分母」

は地球。目の届く地域を「分子」にしつつ、地球規模で課題を見ることが大事です。また国と国との交流よりも、北海道なら北海道という地域と他国のどこかの

地域とが直接つながる交流が大事になります。例えば日本の中の北海道という視点で考えると、食料自給率が低い日本でも、道内は食料生産基地と位置付けられる。もちろん地域の強みを生かすのはいいですが、だからと言って200%



金子正美さん

RCE北海道道央圏協議会代表

「地球を救う」と掲げるSDGsを知り「これだ」と思ったのです。SDGsを地域の課題に引きつけて考える際は、北

地域で必要な分の2倍も4倍もの食料を生産するにです。石炭の時代だと、と

は、地域の外から飼料やエネルギーを大量に持ち込まないといけない。窒素やリンが過剰に入ると河川や土壌は持続可能でなくなるといわれています。地域内で循環させる農業、まちづくりなど、私たちの暮らし全般が今後50年、100年続けられるのか。本当に持続可能なものなのかどうか。この地域で暮らす道民一人一人に考えてほしいと思います。(報道センターの関口裕士が担当しました) 〓おわり〓

んどん人が入ってきて、やがて国策の変更で採れなくなると思いきもされなくなり、地域は疲弊した。農業も自分たちの環境を壊してまでとんとん生産し、疲弊してダメになったらおしまい、とならないか心配です。農業だけでなく漁業、林業、あるいは教育や福祉、交通、まちづくりなど、私たちの暮らし全般が今後50年、100年続けられるのか。本当に持続可能なものなのかどうか。この地域で暮らす道民一人一人に考えてほしいと思います。(報道センターの関口裕士が担当しました) 〓おわり〓

北海道新聞社許諾D1904-1910-00021129

●略歴 金子 正美(かねこ・まさみ)さん
<略歴>1957年生まれ。赤平市出身。帯広畜産大学卒、北海道大学大学院環境科学研究科修了。85年から道生活環境部、北海道環境科学研究センターを経て2001年から酪農学園大学。専門は衛星写真のデータなどを使い、自然環境や生活環境を総合的に解析する研究。89年から2年間、青年海外協力隊員としてマレーシアのサバ州人民発展指導庁に派遣された。現在は農食環境学群環境共生学類教授。エゾシカやヒグマの生息地の拡大や分断化、環境汚染による生態系への被害の拡散を防止するシステムづくりなどに取り組む。コンピューター上の地図にさまざまな情報を入力して活用する、地理情報システム(GIS)やドローンに関する講演も行っている。

SSHの主な活動は随時滝川高校ホームページに掲載いたします。